



# 台湾ランニング事情

## 第1回 台南古都マラソン

石原忠浩（台湾・政治大学国際関係センター助理研究員）

日本では市民参加型の東京マラソンが2007年に始まって以来、空前のランニングブームになっているが、台湾でも各地で頻繁にフルマラソンを含むロードレースが、開催されている。ここでは、自身のロードレースへの参加を中心にして、台湾におけるランニング事情を紹介する。第1回は、2012年2月12日に開催された台南古都マラソンを紹介する。

### 1. 概要及び大会規定

筆者が参加した大会の正式名称は「古都台南国際万人マラソン」（臺南古都國際萬人馬拉松）で今回は第6回目の開催である。国際という名称にあるように、参加者にはケニア、エチオピアなどマラソン大会の常連国をはじめ、24カ国からの参加があり、また万人は1万人規模の大会を意味している。レース種目と規定は表1に記した。

参加費用には、フルマラソンの場合、大会記念Tシャツ、バスタオル、水、弁当が含まれ、レースで使用する計測用のチップを返却すると100元戻るようになっている。フルマラソンレースの制限時間が5時間30分と日本と比べると短か目であることと開始時刻が6時と早いところが特徴であるかもしれない。参加費用は日本との物価の差を考えても若干安い。ちなみにフルマラソンの完走者は男子1853名、女子81名と女性比率が全体の5%以下と女子の参加率は圧倒的に低かった

ようである。（東京マラソン2011年の例では女子比率は23.9%）

### 2. 当日のレース状況

筆者は家族を帯同し、前日に台南泊。当日は4時半にはホテルを出て会場の台南市政府に向かう。5時前に到着するが、すでにかなりの人で賑わっている。荷物を預け準備運動する段階で暗闇の中5時半から主催者の台南市政府を代表して頼清徳市長が、演壇に上がり、今レースには1万1千人の応募があり、参加者に対する歓迎の意と今大会に参加する最年少ランナー8歳、最年長ランナー96歳のほか、今回のフルマラソンが通算100回目になるランナーに対して特別の表彰と記念品の贈呈などを行った。その後エアロビクス体操のような準備体操を行う頃には、空もようやく明るくなる。5分ほど前にスタート場所へ移動することになるが、その後何の前触れも無く6時丁度に号砲となった。スタート場所が狭かったせいか、

表1 レース種目の概要

種目	フルマラソン	ハーフマラソン	10.4キロ	3キロ
参加費用	800元	600元	400元	無料
時間制限	5時間30分	4時間	1時間30分	30分
参加人数	2500	3500	3000	2000
開始時刻	0600			0800



筆者が計測地点を通過するまでに4分を要した。

当日は6時の気温15度、10時でも17度台と日本なら秋の快適な気候であろうが、台湾南部では寒い部類に入る天気のため、長袖長ズボンのランナーも多かった。コース前半は最初の15キロまでは、市内中心部の著名な観光地でもある赤崁樓孔廟、五妃廟、延平郡王祠、億載金城。安平古堡などの古跡を通過するが、古都の早朝は快適ではあるが、しんと静まりかえり沿道の観客もほとんどいない。安平地域を通過した後の15-35キロ区間は郊外のコースになる。

今マラソンは筆者がかつて経験した台北マラソンに比べると道路の交通整理が徹底しておらず、警察の指示の下にランナーの我々が途中信号待ちをさせられること2回。そして、その警察も交通整理はランナー優先という感じではなく、交通整理をしている警官がランナーに向かって「速く走って道路を渡れ」と指示(暴言?)する状況にも遭遇した。また、35キロ以降の市内のコースでは一番右側のレーンだけランナー用に空けているものの、場所によってはトラックと並走するような危険な箇所もあったことを記しておく。

救急ステーションには、水、スポーツドリンク、ビスケットといった定番以外のほかに、筆者が目撃しただけでもスイカ、トマト、バナナ等の果物以外に、饅頭(マントウ)、塩ゆで卵などがあった。また今レースのスポンサーの関係か、筋肉痛緩和

のための薬用スプレーなども置いてあり、筆者も途中ボランティアの看護婦にかけてもらうなどしてもらった。

### 3. 感想

レース中、日本から参加したランナーと話す機会もあった。滋賀県から来たという会社員は、「日本のマラソン大会は抽選があるのでなかなか当たりません。東京も神戸も外れました。台湾の大会は抽選もなくて、良いですね。観光も兼ねることが出来て楽しみです。3月の台北でのマラソンにもエントリーしています。」とのことであり、隣国日本にとっては観光とマラソンを兼ねる台湾ツアーというのも悪くないのであろうか。

筆者自身は、昨年12月の台北マラソンに続く二回目のマラソンであったが、初マラソン以降の練習不足、怪我状況に鑑み、最悪5時間半という制限時間以内完走という低い目標で抑え気味に走ったことで、初マラソンで犯した「前半オーバーペース、後半失速」という罫にかかることなく、また新調したランニング用タイツと靴に助けられともあり、膝等の古傷は痛まず、どうにか4時間41分台でゴールとなった。

台北とは違う雰囲気のあるレースは、新鮮味があり、また他都市でのレースに参加する気にさせられた。レース自体への後悔とともに次回のレースに向けて精進したい。